

## 2023年度活動報告書

2023年04月01日～2024年3月31日

### 【当会活動地の状況】

イスラム過激派の攻撃は、「レース」から「マラソン」状況へ、長期化予測。  
最も必要なもののスコアは、高い順に、食料、避難所と保護、初等教育。

当会活動地であるモザンビーク共和国北部カーボデルガド州。アフリカ屈指の天然ガスメガプロジェクトを背景とし、イスラム過激派の攻撃が2017年10月に発生。2019年後半から激化し、2021年7月以降、ルワンダと南部アフリカ開発共同体(SADC)の支援を受け、ガスプロジェクトに隣接する地区が過激派による占領から奪還されたが、地域の南部と隣接する州で新たな攻撃の波が発生し、大規模な攻撃から小規模な攻撃が分散拡大。テロ紛争は「レース」から「マラソン」へと5年10年スケールで長引くことも予想されている。

これまで5,000人が死亡、100万人が国内避難民となり、115万人が高レベルの食糧危機と直面。

テロ紛争のみならずロシアのウクライナ侵攻による食料価格の高騰の影響も受け、貧困が危機的なまでに深刻化しており、何よりも必要なのは生き延びるための「食料」、次に書類へのアクセスと「避難所と保護」、「初等教育」と、カーボデルガド州の住民・避難民は訴えている。

当会は現地で唯一の草の根NGOであり、武力衝突と激貧の地・カーボデルガド州の州最大のスラム地区で2013年以来活動を途切れることなく継続。当会のペンバ寺子屋では避難民の子どもたちも含め総勢350名の幼児・子どもたちが通所しており、教育と食料配布を毎日実施しているが、避難施設の整備等活動と活動範囲が大きくなる一方で、日本の支援団体・企業のNGO活動への支援が縮小傾向にあり、助成金に依存する当会の資金調達が困難になっている。近年の課題である定期的な寄附者は未だ20名に留まっており、企業へのダイレクトな支援依頼や、日本国内での講義公演活動を通じての支援者数の増加も引き続きの課題である。

### 【2023年度の活動方針】

「命を守る」基本中の基本の活動に注力しつつ、「小さな商いプロジェクト」を見据える。

設立から11期目となる2023年度。現地の危機的な食糧難、コレラの流行、行き場のない避難民の命を守る活動を最優先事項として実施し、かけがえない命を確実に守る。同時に、支援の光りの当たらない当会エリアの経済と支援の循環を創造するための「小さな商いプロジェクト」の始動に向かい動き始める。

2023年度の活動に関して、引き続き、毎月日本事務所とモザンビーク事務局にてオンライン会議及び役員会を実施した。

### ★2023年に重視する行動・3つの柱★(2022年から継続)

- 1：食べられる：子どもたちもコミュニティの人もスタッフも皆が食べていける支援。
- 2：知られる：認知度の低い地から、現状と声を届けていく広報。
- 3：思いやる：困っている人を見逃さない、見捨てないコミュニティ文化の強化。

<注力項目>

- 配食・公衆衛生活動…子どもたちを飢餓、栄養失調、疾病から守る。
- コミュニティの相互扶助力の強化…平和の家に公民館機能を持たせていく。

## 【2023 年度の活動計画骨子】

<組織基盤整備> 長期的な活動の持続可能な体制づくり。

- ・ 車両の整備
- ・ 設立 10 周年記念誌の制作
- ・ 表彰事業へのアプローチ・5つの賞を受賞

<教育活動> カーボデルガド州ペンバとナンブラ州ナンブラ 2 箇所にて、寺子屋運営。

- ・ **【重要】** 朝と版の配食活動
- ・ 寺子屋での子ども教育の継続。奨学用品の配布
- ・ ペンバ・ナンブラ寺子屋の修繕
- ・ 寺子屋ガールズ巾着プロジェクト（2年目）

<公衆衛生活動> 基本的な公衆衛生知識の供与と疾病死亡率の低減。。

- ・ **【重要】** ペンバ寺子屋こども公衆衛生・感染症対策教育

<環境保全活動> コミュニティで取り組む環境美化と貧困と環境保全問題の両立。

- ・ 助成金獲得できず環境保全活動は実施無し

<テロ紛争被災者支援活動> 支援の光が当たらない被災者の命を守る活動。

- ・ ナティティ平和の家の整備
- ・ エспанサオン平和の家の整地
- ・ **【NEW】** エспанサオン共同水場の整備

<国際相互理解推進活動> 平和・相互扶助・国際交流をテーマとした講義公演活動。

- ・ 日本国内での講義公演活動

<小さな商いプロジェクト> コミュニティの経済と社会支援が回る事業の創出。

- ・ 想定する事業のプレスト・具体化、資機材の見積

## 【2023 年度の主な活動】

- **組織基盤整備** 長期的な活動の持続可能な体制づくり。

### 《車両の整備》

スラムの住民やテロ紛争避難民の移動に用いるため、日産キャラバンの中古車を購入。運用中に、中国企業のミキサー車の暴走による7台を巻き込む事故に巻き込まれ廃車。現在、裁判中。



### 《設立 10 周年記念誌》

2013 年の設立から 10 年間の活動履歴やニュースレターを掲載した 80 ページの冊子 500 部を制作し、広報ツールとして活用。



←10 周年記念誌閲覧ページリンク

### 《表彰事業へのアプローチ・5つの表彰を受賞》

これまで表彰事業への申請を行ってきいていなかったが、助成金が不足しているため 2022 年から表彰事業の助成を申請し、2023 年度に『国際居住年賞』『第 1 回風に立つライオン基金オブ・ザ・イヤー』

『第 60 回社会貢献者表彰』『第 27 回地球倫理推進賞』『文部科学大臣賞』を受賞した。





【 教育活動 】 カーボデルガド州ペンバとナンブラ州ナンブラ 2 箇所にて寺子屋を運営。

### 【重要】《朝と晩の配食活動》

ペンバ寺子屋の子どもたちの15%が1日1食以下であり（2021年4月調査）、寺子屋での配食活動が無いと1日何も食べれないという子どもが10%以上いるため、引き続き、朝と晩の食料配布を継続した。



### 《寺子屋での子ども教育の継続、奨学用品の配布》

避難民の子どもも増加し、すでに寺子屋に通所する子どもが350名を超えているため、設備の修繕を行いながら教育活動、奨学用品の配布を継続した。なお、寺子屋キッズは2歳から15歳がメインであるが、2歳から6歳の年少組の新たな入所が増加しているため幼児教育も強化。寺子屋 OGOB が先生になり教育する、「学びの環」が広がっている。



●6月1日国際子どもの日には、初めて皆でトラックの荷台に乗ってビーチへ！初めて海を見る幼児もおり、子どもたちが大喜びであった。



## 《ペンバ・ナンプラ寺子屋の修繕》

ペンバ寺子屋の外壁割れと雨漏りの修繕、ナンプラ寺子屋の内外壁と床、屋根すべての部分のセメント塗りを実施。衛生的に過ごせるように修繕作業を行った。

○ペンバ寺子屋の修繕作業



○ナンプラ寺子屋の修繕作業



## 《寺子屋ガールズ巾着プロジェクト（2年目）》

寺子屋の女子及びOGによる巾着づくりアルバイトを去年に引き続き実施。200枚制作し、ルワンダ産のコーヒーを入れて日本で販売した。



【 公衆衛生活動 】 基本的な公衆衛生知識の供与と疾病死亡率の低減。

### 《ペンバ寺子屋こども公衆衛生・感染症対策教育》

7年目となる公衆衛生活動。避難民の流入・自主的受け入れにより1つの家で50人で居住する家もある中、コレラが流行。劣悪な環境で衛生的に生きるための基本である、石鹸での手洗いや爪切り、歯磨き、洗剤の使用方法、正しい感染予防の知識を供与し、寺子屋の子どもの死亡率3年連続ゼロを達成した。



【 環境保全活動 】 コミュニティで取り組む環境美化と貧困と環境保全問題の両立。

助成金が獲得できず、環境保全活動は2023年度は実施できなかった。

【 テロ紛争被災者支援活動 】 支援の光の当たらない被災者の命を守る活動。

### 《ナティティ平和の家の整備》

2021年に建築開始したナティティ地区の Casa de Paz（平和の家）には避難民6世帯が居住、1部屋は管理人が居住している。深井戸 - 外壁給水部まで電動ポンプで給水していたが負荷がかかり給水が不安定なため、タワー型給水塔を設置。また天井板の取り付け、トイレの増設、防犯対策を行い、コミュニティの人たちも平和の家を利活用できるように整備した。



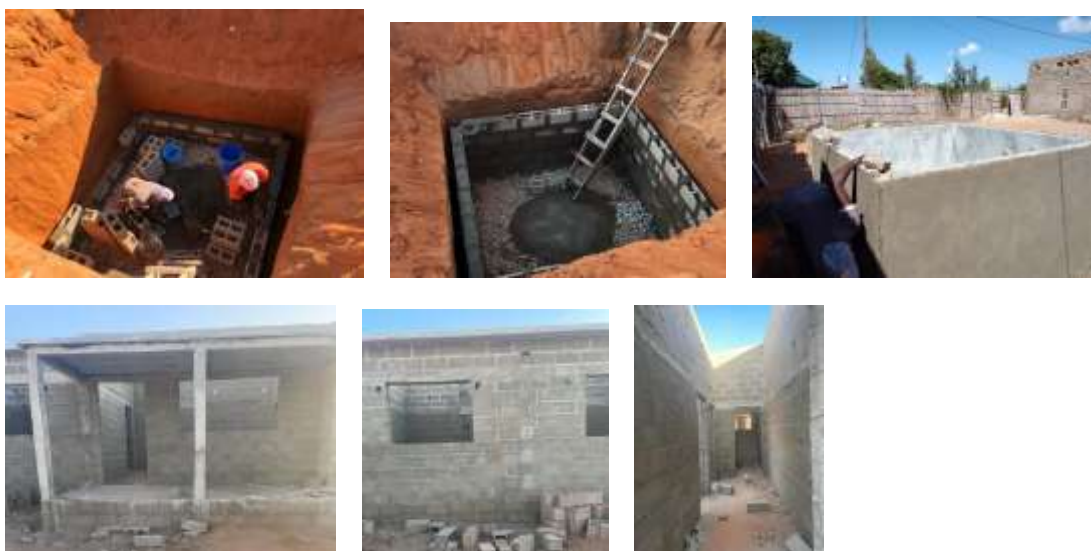
## 《エスパンサオン平和の家の整地》

2022年度に起案したが資金調達できないため、2024年度に着工予定の平和の家の第二弾、エスパンサオン平和の家の建築（パース作成済み）のために雑草まみれになっていた土地の整地を実施。



## 【NEW】《エスパンサオン共同水場の整備》

安全な水のアクセスが難しく、水道を引いても水が出ないことが判明したエスパンサオン共同水場に、地下タンクを設置。すでに避難民が住んでいるため、スタッフ自ら銀行からお金を借りて建屋のブロック積み作業を実施した。2024年度に建屋をきちんと住める状態に整備する予定。



【 国際相互理解推進活動 】 平和・相互扶助・国際交流をテーマとした講義公演活動。

## 《日本国内での講義公演活動》

関東、関西、九州、沖縄にて、全 34 講義公演（東京 5、神奈川 1、埼玉 1、京都 2、大阪 9、福岡 8、沖縄 8）2,375 名の皆様にご参加いただいた。

特に、織田信長に仕えたアフリカ人でモザンビーク出身とされる弥助をモチーフにした音楽劇【WAVOLUTION of YASUKE～信長が愛した Black Samurai～】への参加が特筆すべき公演。



【 **小さな商いプロジェクト** 】 コミュニティの経済と社会支援が回る事業の創出。

《**想定事業のブレスト・具体化、資機材の見積**》

食堂、美容院、運送、パン屋、自動車整備、裁縫屋等。スラムの人たちが日常的に利用できるサービスやモノを提供する小さな事業を創出していくための基盤づくり。現地は資材の調達も遠方まで行かねばならないため、出張を行いながら、見積をとった。2024年度はナティティ地区に土地を確保する予定。

(補足) 当会活動地・ペンバ市の施設所在地 (南へ車で5時間のナンプラ州にナンプラ寺子屋も有り)



以上



2023 年度

(2023 年 4 月 1 日~2024 年 3 月 31 日迄)

収支報告書

科 目	金 額	
<b>I 経常収益</b>		
1. 受取会費		4,000
2. 受取寄付金		2,895,242
3. 助成金/15団体		16,880,089
4. 表彰金/4団体		7,000,000
<b>経常収益計</b>		<b>26,779,331</b>
<b>II 経常費用</b>		
1. 事業費		
(1) 人件費		
モザンビークスタッフ人件費	2,894,208	
<b>人件費計</b>	<b>2,894,208</b>	
(2) その他経費		
●ペンバ寺子屋運営費		
アルバイト人件費	1,235,518	
資材教材費	1,426,906	
配食イベント費	3,519,112	
修繕費	446,799	
職人費	525,049	
資料費	77,812	
●ナンブラ寺子屋運営費		
配食イベント費	483,887	
資材教材費	379,416	
旅行交通費	137,400	
●公衆衛生活動		
資材費	2,583,897	
消耗品費(救急活動)	59,112	
●テロ紛争被災者支援		
○ナティティ平和の家		
資機材費	2,545,855	
職人費	635,405	
○エスパンサオン共同水場		
資機材費	552,576	
職人費	200,484	
○エスパンサオン平和の家		
修繕(清掃)費	34,650	
○その他緊急支援		
配食衛生用品費	556,780	
●国際相互理解推進活動		
謝礼	390,000	
旅行交通費	810,266	
印刷製本費	671,551	
●渡航費		
旅行交通費	529,701	
●通信費		
モザンビーク通信費	293,777	
<b>その他経費計</b>	<b>18,095,953</b>	
<b>事業費計</b>		<b>20,990,161</b>
2. 管理費		
(1) 人件費		
日本人件費	203,200	
ガード人件費	168,480	
<b>人件費計</b>	<b>371,680</b>	
(2) その他経費		
車両購入維持費	2,326,638	
モザンビーク事務所維持費	278,400	
<b>その他経費計</b>	<b>2,605,038</b>	
<b>管理費計</b>		<b>2,976,718</b>
<b>経常費用計</b>		<b>23,966,879</b>
<b>当期正味財産増減額</b>		<b>2,812,452</b>
<b>前期繰越正味財産額</b>		<b>608,368</b>
<b>次期繰越正味財産額</b>		<b>3,420,820</b>